



「子供の尊い命を守り、無限の可能性を伸ばす」陣屋小学校

陣屋小だより

学校教育目標

かしこく
やさしく
たくましく

令和6年3月1日

第11号

一年間、ご支援・ご協力ありがとうございました 校長 保戸田雅之

異常気象とも言えるような暖かい日が続いたり、急激に冬の寒さに戻ったりと、ご家庭でも体調管理に苦労されていることと思います。令和5年度も最後の月となりました。進学・進級に向けてのまとめをしっかりと進めたいと思います。



さて、陣屋小学校は開校45周年の節目の年に、コミュニティ・スクールとして10周年を迎えました。保護者・地域の皆様には、本年度も本校の教育活動にご支援ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

PTA本部をはじめ、各専門部や係の皆様には、大変お世話になりました。また、学校応援団の活動でも、多くの保護者の方のご支援をいただきました。

子供たちが毎回楽しみにしている読み聞かせ、全校遠足の安全見守り、きれいな花でスモールガーデンを飾ってくださるPTA環境美化部など、どの活動も本校の自慢です。

さらに、早朝のあいさつ運動や登下校等の見守り活動、親子清掃や親子除草、運動会の会場設営や駐輪場誘導まで、貴重な時間を子供たちのためにと割っていただきました。職員一同厚く御礼申し上げます。

陣屋っ子たちは、本当に恵まれた環境の中で毎日の学校生活を送っています。これだけ多くの方々に支えられているのですから、子供たちには地域・社会の担い手として立派に育ってほしいと改めて思います。

来年度からは、PTA活動をスリム化して、教育活動への支援を学校応援団の活動に移行していく計画です。「できる人が、できるときに、できる範囲で。」を基本にしながら、子供たちの活動に参加していただく機会をさらに工夫していきたいと思っております。来年度も変わらぬご支援ご協力をお願いいたします。

言わなくても伝わる「優しさのリレー」

陣屋小では年間に10回近く、なかよしグループ（縦割り班）で遊ぶ「なかよしあそび」という時間があります。また、2月中旬には、6年生に感謝の気持ちを伝える「ありがとう給食」（縦割り班給食）が行われ、食後は室内遊びで楽しく過ごしました。

1年生から6年生の異年齢集団で遊ぶ「なかよしあそび」をよく見ていると、1年生に優しく話しかけたり、鬼ごっこなどでも手加減をしてあげたりする6年生の姿に気がきます。6年生の子供たちの高学年らしさを一番実感する瞬間です。こういう優しさは特にルールとして決まっているのではなく、ごく自然に実行されています。おそらく何も言わなくても次の6年生へと引き継がれていくものだと思います。「下級生に優しい6年生」が陣屋っ子の自慢の一つです。



伝えるべき人に、しっかりと伝える

一方で、しっかりと意志をもって伝えないと伝わらないのは、「ありがとう」や「ごめんなさい」という言葉です。

失敗をしたり迷惑をかけたとき、つい黙ってしまうことがあります。また、優しくしてもらったのに、そのままにしてしまうこともよくあることです。

先日、掃除の時間に、とてもはっきりとした声で友達に「ありがとう」と言っている様子を見かけて、嬉しくなりました。感謝や謝罪の気持ちを素直に表現するのは照れくさいかもしれませんが、それを乗り越えて言葉で伝えないと、いつまでも他人との関わりは希薄なままで、心の成長は期待できません。

伝えるべき人に自分の気持ちをはっきりと言葉にして伝え、卒業・進級のときを迎えてほしいと思います。



ホームページで教育活動の様子を紹介しています。ぜひ、アクセスをお願いします。

陣屋小学校 HP <https://e-jinya-c-niiza.edumap.jp/>